

8. 島田公民分館等への「魅力ある学校づくり構想」の説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成 28 年（2016 年）4 月 23 日（土）19 時～

○場 所：島田小学校体育館

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>先ほどの説明にはなかったが、島田小学校の耐震工事について聞かせてほしい。入札不調で耐震化されず、今回の再編計画で学校もなくなってしまうのでは踏んだり蹴ったりである。</p>	<p>耐震工事は「中止」ではなく「凍結」です。現在、職員室のある棟を解体し、新たな校舎を建てる予定でしたが、今回の構想案の関係で耐震工事の方法の再検討を行っています。再検討の案が固まれば、設計し直す必要があり、少し時間がかかります。その点、ご理解いただきますようお願いいたします。</p>
<p>平成 23 年 12 月に耐震工事の説明会があり、すぐに工事が始まると思っていた。今回の熊本地震のこともあり、今回の計画後の「跡地」のことも考えてほしい。</p>	<p>仮に今回提示した構想案のいずれかで決定すれば、島田小学校の敷地は「学校跡地」となりますが、跡地に関しては、さまざまな観点から有効活用を検討することになっています。例えば、耐震化した体育館は防災の観点から、今回の工事で再整備した給食調理室は福祉や子育ての観点からの有効活用が考えられます。跡地利用についても、皆様のご意見をお聞かせいただき、参考にさせていただきたいと考えています。</p>
<p>小中一貫教育について教えてほしい。カリキュラムだが、小中 9 年間で組み替えて独自プログラムを進めていこうとしているのか、それとも教科外で独自プログラムを進めようとしているのか。この庄内地域で実験的に小中一貫教育を行うことはやめてほしい。もう一点、入れ物の話だけでなく、どのような子どもたちを育もうとしているのか、ポリシーを聞かせてほしい。</p>	<p>今年 4 月から制度化された義務教育学校にすれば、小中 9 年間で柔軟にカリキュラムを組む、前倒ししたり、後送りしたりできるようになりますが、まだ現時点では検討していません。転出入のことも考えておく必要があります。小中一貫教育は全く新しいものではなく、今現在行われている小中連携の延長線上にあるものと考えています。例えば、庄内西小学校と第七中学校では授業づくりで連携が深まっています。これまで積み上げてきた成果がベースにあり、他市事例のうち好事例を加えるようなイメージで考えています。最後に、どのような子どもたちを育むかという点ですが、これまで行ってきたワークショップ等では「あきらめない」「がまんする」「夢に向かって頑張る」子どもに育ててほしいというご意見が多数ありました。当たり前のことのように、まずはそこをめざし、その後に「庄内に誇りを感じる」「大人になっても住み続けたい」と思ってもらえるような、そんな学校をめざすべきだと思っています。</p>
<p>「魅力ある学校」づくりの話はメリットを強調しすぎではないか。デメリットの方がむしろ多いのではないか。例えば、狭い運動場を中学生が部活等で占拠し、低学年の遊び場が確保できないのではないか、フールは一つしかなく、低学年と高学年で身長が全然違うのに大丈夫なのか、小学校 6 年生のリーダーシップが損なわれるのではないか、などの課題も大きい。今の小規模校の何が</p>	<p>我々は、小規模校が全く悪いとは考えていません。教職員が少ない人数でも協力し合って子どもたちをきめ細かに見ていることはわかっています。しかし、このままではどんどん小規模化が進行し、教職員の頑張りだけではどうにもならない状況に陥ることが目に見えています。実際に庄内小学校は、今年度、かろうじて 3 年生だけ 2 学級に分けましたが、本来ならば全学年 1 学級という状況です。また、小規模化だ</p>

<p>悪いのか。また、小学校は地域コミュニティの拠点であり、災害時にも避難所等の役割がある。今回の計画を進めてしまえば、後戻りできなくなる。もっと検討すべきではないか。</p>	<p>けならば様子を見ることも考えられますが、庄内地域は他の地域に比べて生活課題や学習課題を抱える家庭や子どもたちが多くことから、思い切った方策が必要と考え、今回の構想案を提案しました。先日のPTA対象の説明会でも「中学校の一部の生徒が小学生に悪影響を与えるのではないかと」いったご意見もいただきましたが、全国の小中一貫校では、異学年交流等を通じて上級生が下級生を思いやる気持ちをもつ、下級生は上級生に憧れの気持ちをもつなどの成果が報告されています。また、ご意見にあった運動場については、構想案でお示しした校舎配置案にもあるように小学校低学年が遊べる場所を確保するなどの工夫で対応できるものと考えています。プールについても、大池小学校のプールのように可動式の床で深さを調整することができます。6年生のリーダーシップについても、異学年交流や行事等の持ち方によって対応できるものと考えています。小中一貫校にもメリット、デメリットは確かにありますが、課題は一つ一つ検討することで乗り越えられるものと考えています。</p>
<p>学校の建替や統廃合に金をかけるとのことだが、現有の校舎等は使えないのか。個人的には臍に落ちない。庄内地域はどのような方向でまちづくりを進めていくのか。道路整備にしてもいまだに拡幅されず、尻切れトンボで途中止まっているところもある。音大通り、松下電器工場跡の公園、ローズ文化ホールなど、地域資源を活用した魅力あるまちづくり構想が必要ではないか。</p>	<p>本日ご説明した構想案2案は全面建替の想定で配置図など一例をお示ししましたが、現有校舎を使わないと決まったものではありません。とはいえ、ほとんどの校舎が昭和40年代ごろに建築されたもので、耐震性能は確保されていたとしても躯体自体どの程度もつのか、またバリアフリーの観点などからも検討する必要があると考えています。</p>
<p>学校統廃合の件は、小学校同士、中学校同士で行われると思っていたが、今日小中一貫校の話聞いて驚いている。例えば、景観水路のところで、中学生たちが喫煙している姿が伝統的にみられる。あのかわいかった子がなんでこうなるのか、という思いでいつも見ている。そのような状況で小中を一緒にしてもよいのか。</p>	<p>小中一貫教育によって、上級生が下級生に思いやりの気持ちをもつ、下級生は上級生に憧れの気持ちをもつ、といった成果が見られることは先ほどお伝えしましたが、いきなり効果が表れるかといえば、時間がかかるかもしれません。それよりも、地域行事などに低学年は参加しますが、成長するにつれて参加しなくなり、しばらく見ないうちに非行に走っていたということについて、新しい学校では、子どもたちの様子をできるだけ地域の方に見ていただけるよう、「地域資源の活用」という観点で学校に来ていただけるような仕組みが必要と考えています。</p>
<p>学校再編には賛成だが、校区が広くなり、1年生の子どもの体力に不安を感じる。自分自身は学校が近くてよかった。また、防犯面でも不安に感じている。その点、どう考えているか教えてほしい。</p>	<p>低学年、特に小学1年生にとって、通学距離が遠くなり、負担が大きくなることは懸念事項です。PTAからもスクールバスの話は出ており、「この構想案をお示しする時点でスクールバスは想定していなかったが、ご意見として持ち帰り検討します。」と答えています。ただ、地図上では2km圏内におさまっており、歩けない距離ではないとも考えています。歩くことによって体力向上につながるといった考え方もあります。防犯については、今年度から2ヶ年で市内の通学路</p>

	<p>を中心に 1,230 基の防犯カメラが設置されることが決定しています。防犯カメラは危機管理課が所管していますが、例えば道路のカラー舗装などは都市基盤部が所管しており、教育委員会を中心に関係部局等と連携して取り組んでいきます。</p>
--	---